

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0191600030号		
法人名	社会福祉法人 上ノ国福祉会		
事業所名	グループホーム 勝山		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町字勝山136-3		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	平成29年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①昼・夕食前に体操をおこない、身体機能の低下を防ぐように努めている。</p> <p>②外気浴・日光浴に力を入れており、天気の良い日はなるべく外の空気にあたるようにしている。</p> <p>③誕生会はその日におこない、誕生者の食べたい物をできる限り提供している。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosvoCd=0191600030-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>上ノ国町は桧山管内の南端で人口5000人程の町で、町の中心部を流れる天の川の橋を渡り、川の堤防沿いに折れると花沢温泉簡易浴場があり、前の道を小高い丘に向かって登ると運営母体の特養老人ホームかみのくに荘とデイサービスセンター事業所の建物があります。その裏手に当事業所が位置しています。この丘陵地には母体法人の施設と広い駐車場があり、階下には上ノ国町の町並みが一望でき、遠くには日本海を見渡すことができます。母体法人事業所とは行事や会議、防災訓練など合同で開催することもあり、利用者同士の交流も日常的に行われています。代表者は高齢者福祉全般にわたり豊かな経験と知識を熟知し、職員の確保や医療体制など難題に行政と協働で取り組んでいます。管理者と職員は利用者の尊厳を守りながら認知症の理解に努め、異常行動にも臆することなく笑顔で対応し、利用者は自然豊かな環境の中で地域住民と交流しながら安心して穏やかな生活を確保しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を理解し、日々実践し努力している。	法人の「お世話させていただきます」の基本姿勢を根幹とし、介護する者の苦勞とされる側のつらさの軽減を端的に示した独自の理念を作成しています。	運営理念、基本理念、ケア理念はそれぞれに利用者の尊重や地域性とケアの目的を重視した理念となっておりますが、事業所内の掲示と、職員全体で共有する事を期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りの見学や保育所からの慰問などを行っている。	デイサービスに訪れた踊りの慰問の見学や中学生や高校生の職場体験の受け入れもあり、上ノ国保育所園児の踊りと歌、町内のおまつり神輿が訪れて利用者の心を和ませるなど地域との交流は図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では行われていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議で、ホーム内での取り組み・状況等を報告しアドバイス・助言をいただいている。会議後には家族全員に議事録を送付している。	定期的に開催しています運営推進会議は役場、家族、包括支援センター、地域の方が参加で、行事、活動、事故報告と外部評価を議題とし、忌憚のない話し合いが行われ質の向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加していただいている。困難な事例を相談したり、退院後の入居者の今後について相談したりしている。	町担当者とは事業所の運営や困難事例、介護保険サービス加算の説明など多岐にわたり相談やアドバイスを受けて協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については正しく理解しており、法人全体の会議や報告会などで定期的に学ぶ機会を設けている。	身体拘束廃止の外部研修会に職員は積極的に参加し、受講後、伝達講習を実施しています。全職員が禁止の対象となる具体的な行為を把握し、安全を確保しながら自由な暮らしの支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努め、職員会議・法人内の報告会などで定期的に学ぶ機会を設けている。研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用する機会はなく、制度の周知には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約結ぶ前にホームの見学をしていただき、説明をしている。重要事項説明書を十分に説明した上で契約をかわしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情についてはその都度受け止め、運営に反映させているが、外部者へ表す機会は設けていない。	家族の意見は運営推進会議の中で聴取し、運営に反映しています。面会時の食品の持ち込みは個々に相談しながら、支障のないように職員間で検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、その他にも意見・提案を聞くように努めている。	朝ミーティングや職員会議の中で気軽に話し合い、全職員で意見の統一を図ったり、上司の判断を仰ぐなど質の向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得をするための支援をしている。資格得後は資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。研修後は法人内の研修報告会などで、参加できなかった職員にも周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は同業者と交流する機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の意向を聞くように努めている。思いを伝えられないことが多いため、家族にも同席をしてもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時等に家族の意向を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に合わせた必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度・畑仕事・昔の行事などを学ばせていただき、日々の生活に生かしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に何かあればすぐに報告し、家族に協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるように支援している。知人や近所の方が来られた時には、周りを気にせず談話できる雰囲気を作るよう心掛けている。	隣接のデイサービス利用の友人や姉が定期的に訪問し、居室でお茶を飲みながら話しています。知人からの電話を取り継ぐ時には一言、訪問を待っている事を伝えるなど、継続支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には声掛けを多くし、レク等に参加しやすい環境を作っている。また、訴えをよく聞き、対立しないように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の要望を聞き、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を聞き、把握できるように努めている。	利用者の思いを日常生活の会話などから確認し、介護計画に反映させたり、困難な時には表情や態度で意向を汲み取り、家族から情報を得て支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の生活状況をできるだけ詳しく把握し、全員で共有できるようフェースシートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活パターンを職員全員が把握し、日々申し送っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、サービス担当者会議を開き介護計画を作成している。	本人、家族の要望を取り入れながらサービス担当者会議の中で前回の評価と現状の評価を検討しプランに反映させています。モニタリングを行い経過を観察するなど現状に合わせた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のバインダーを用意し、日々の生活がわかるように細かく記録用紙に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向に添えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在ある地域資源の活用に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医への受診支援を行っている。適切な関係・医療を受けられるよう支援している。	町立上ノ国診療所が協力医となっており、職員は受診に同行し、遠方の受診は家族が対応しています。職員は特養ホームの看護師に体調を伝え、アドバイスを受たり、家族と連携しながら適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特別養護老人ホームの看護師に利用者の状態を相談したり、体調不良時には様子を見にきてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、早期退院に向けて病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状態に変化がみられた時には、家族と今後の相談をおこなっている。	代表者は重度化に伴う事業所の対応力や力量を把握しており、家族に事業所としての方針を説明し同意を得ています。職員全体で方針の統一を図り、利用者のニーズに合わせ、家族と連携を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はおこなっていない。書籍などは用意して、いつでも見られる体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。その年により、訓練の方法を変えて行っている。協力体制も整っている。	年2回の火災訓練は特養ホームと合同で春は日中、秋は夜間を想定として消防署立会いで実施しています。訓練は失火場所を想定し利用者の避難、誘導が行われ、訓練後には消防署員から反省点など話されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気を付けている。方言や、利用者に合った言葉掛けを心掛けている。	職員は利用者に話す声のトーンや優しい声がけ、居室出入り時の注意など、日常的に本人の尊厳を無視しないようさりげなく配慮しています。個人情報の書類は一定の場所に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	持てる力を発揮できるよう、見守りに重点を置き、できる限り自分で納得して生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には決まりや都合を優先させてしまい、反省することもあるが、希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びが困難な利用者には、職員が状況にあった衣服選びをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・準備・片付けは、毎食とはいかないが、行っていただいている。献立は好みに添えるよう工夫している。	管理者が献立を作成しています。利用者は畑で野菜を育て食材にし、調理の下ごしらえ、後片付けを職員と一緒にするなど食事を一日の大切な活動のひとつにしています。栄養バランスやカロリーは役場栄養士の指導を受けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量をチェックし、必要量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて、声掛け・一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートに記入を行い、パターンを把握している。自ら排泄にいけない利用者には、声掛け・誘導・介助を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本としていますが、夜間は安眠を優先とし個々に合わせた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼・夕食前に体操を行っている。また、こまめに水分補給できるよう声掛け・提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は火曜日・金曜日に決まっている。状況により曜日を変更することはあるが、週に2回の入浴になっている。	近くの花沢温泉から源泉を入れていす大型浴槽で利用者は週2回の入浴を仲良し同志で楽しんでいます。拒否傾向の時には、足浴や下半身洗浄、シャワー浴などで対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、見守り・声掛けを行っている。眠れない利用者に対しても状況に応じて対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のバインダーに服薬内容等を記入・ファイリングしている。職員は使用している薬について理解している。専用品紙に服薬をチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じた役割(畑仕事・家事)を持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などは希望に応じて行っている。天気の良い日は外へ出るように積極的に声掛け・見守り・付き添いを行っている。	天気の良い日は周辺を散歩したり、家庭菜園の手入れをしています。春のお花見から秋の紅葉まで遠出のドライブを楽しみ江差の町や町内のお祭りなど地域の行事見学に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えるように支援している。所持が困難な利用者には、家族の了承を得て金庫に保管している。必要時にはすぐ使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて手紙の代筆・電話の取り次ぎなどを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物・作品・花などを飾り、季節を感じられるようにしている。	平屋造りの1ユニットの事業所で、玄関ロビーにはわら草履や、わら長靴のミニ細工品が飾られ、廊下の壁には手作りの作品や季節感ある装飾があります。建物中央にあるウッドデッキは車椅子の出入りが可能で、自由に外気に触れることができます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	山側の廊下にソファを置き、独りで過ごしたり気の合った方同士で語り合えるようにスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や、使いやすい物などを使用し、心地良く過ごせるようにしている。	大型クローゼットが備え付けてある居室は在宅当時のベットや家具類と日用品が持ち込まれ、思い出の小さな人形や置き物があり、家族と相談しながら、その人らしく暮らせる部屋に工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所に目印を付けて、わかりやすいようにしている。利用者に合った日課を作り、できることを行ってもらおうようにしている。		